

第1回「県政ひざづめ談議」概要

○開催日時：平成21年4月28日 14:00～

○開催場所：富士工業技術センター

〔司会〕

大変長らくお待たせいたしまして申し訳ありません。

ただいまから『県政ひざづめ談議』を始めさせていただきます。

本日の進行役を仰せつかりました県広聴広報課の堀内でございます。よろしくお願いいたします。

始めに横内知事からあいさつをお願いいたします。

〔知事〕

どうも皆様こんにちは。横内でございます。

今日はそれぞれ企業経営をご努力なさっておられる役員の皆様方ばかりでございます。大変にお忙しい方々だと思いますけれども、こうしてお集まりをいただきまして本当にありがとうございます。日頃県政の推進、あるいは本県の産業の振興にご尽力をいただいておりますことに対しまして、心から御礼を申し上げたいと思います。

まあ、それぞれ機械電子産業をはじめとして、先端的な企業経営をなさっておられる皆さんでありますので、この戦後最悪といってもいいこの不況の中で、非常にご苦労も多いことだろうというふうに思うわけであります。

県といたしましても当面の一番大きい課題は、この厳しい状況を県民の皆さん、企業の皆さんに歯を食いしばっても乗り切っていただく。そのためにできるだけのご支援をすることが当面の県政の一番大きい課題でございます。いろいろなことを昨年来やってきているわけであります。

その中で中心的なものは、やはり一つは企業の皆さんに資金繰りの面でのご支援を申し上げるために、商工業振興資金の特に資金繰り融資の部分ですね、これを最大限融資枠を拡大をしたり、あるいは条件の改善をしたりしまして、国の緊急補償制度と連動をしながら支援を行っているということが一点であります。

この県の資金繰りの融資というのは、経済変動対策融資というふうに言うんですけれども、これが一昨年に対しまして昨年度は6.4倍増えまして、それだけ県内の企業の皆さん、この融資制度を借りていただきながらこの状況を乗り切っていただいているというふうに思っているわけであります。

それから失業者が増大をしているものですから、これも国の施策と連動してできるだけ雇用機会を創出をしようということで、今年度は1,200人相当分の新しい雇用をいろいろな形で創造するというようなことも一生懸命やっているところであります。

国のほうもいよいよ本格的な景気対策を打っていただきまして、先般国会に提出をされた追加経済対策、真水で15兆円規模の経済対策。これは非常に本格的なものでありまして、大変に行き届いたものだなというふうに思っているわけであります。

これを今盛んに中身を情報収集しているところでありますが、皆様にとってお役に立つ

有利な施策をできるだけ活用して、最大限のことはやっていきたいと。6月の県議会に県としても補正予算を提出をして、切れ目のない施策を取っていきたいというふうに思っているところであります。

そんな施策をやっているところでありますけれども、こういった厳しい状況の中で県としてどんなことをさらにやっていったらいいか、その辺について皆様方それぞれ色々ご意見がおありになるというふうに思うわけでありましたが、そんなことを中心に、今日はどんなことでも結構でございますので、日頃お考えになっていること、県政に対してご注文あるいはご意見、そんなことを忌憚なくお聞かせをいただければありがたいというふうに思っております。そんなことで皆様方の一つざっくばらんなご意見をお聞かせをいただければ幸いですようお願い申し上げます。今日はどうもありがとうございました。

(拍手)

〔司会〕

それではここで本日出席しております県の担当者を紹介をさせていただきます。

企業の誘致などを推進しております中込産業立地室次長でございます。

〔中込産業立地室次長〕

中込でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

(拍手)

〔司会〕

企業への資金貸し付けなどを担当しております岩波商業振興金融課長でございます。

〔岩波商業振興金融課長〕

岩波でございます。よろしくお願いいたします。

(拍手)

〔司会〕

経営革新などの支援を担当しております尾崎産業支援課長です。

〔尾崎産業支援課長〕

尾崎でございます。よろしくお願いいたします。

(拍手)

〔司会〕

職業訓練等を通じた人材育成などを担当しております佐野産業人材課長でございます。

〔佐野産業人材課長〕

佐野でございます。よろしくお願いいたします。

(拍手)

〔司会〕

それでは早速意見交換に入らせていただきたいと思いますけれども、本日はテクノネット「ふじざくら」の皆様と富士北麓・東部地域における産業振興の方策など、知事も先ほど申し上げましたけれども、ざっくばらんな意見交換をお願いをしたいというふうに考えております。おおむね対応の時間は1時間を予定をしておりますので、限られた時間の中ではございますけれども全員の皆様が発言できるようご協力をお願いしたいというふうに考えております。

それでは早速ご発言をお願いしたいと思います。

いかがでしょうか。

〔参加者〕

では先にちょっと口火を切らせていただいて・・・。

横内知事には大変お忙しい中、今日時間を取っていただきましてどうもありがとうございました。また、日頃は郡内地区にも積極的にいろんな対応されていることを深く感謝をしたいと思います。

ここにご案内のとおり、ここに集まったメンバーはテクノネット「ふじざくら」ということで、郡内地区の機械電子、精密機器、プラスチック等々を営む、それぞれ優秀な会社の社長さんに今日は集まっていただきました。

この郡内地区は、特に山梨の産業の構成の中で高い地位なんですよね。ここは山梨、おそらく機械電子の工業出荷額というのは1兆8千億ぐらいあると思いますけれども、約40パーセントに当たる7千億ぐらいをこの郡内地区で出荷をされているわけですね。それで日頃のグローバル化の進展の中で非常に競争が激化をしまして、それに伴う技術革新の問題、それと人材の問題。もう一つは先ほどお話のあった資金力の問題、まあ経営の強化。こういったものを踏まえて単独で行う事業と、官民一体となって、県のほうにもいろんな要請をして一体化をさせていただく中で活力をつけていくということが、皆さんおそらく今日話の中で出ると思いますけれども。

それともう一つは、百年に一度の不況は底を打ってきたというふうに見る向きもありますけど、おそらくこのトンネルを過ぎ切る時には、またかなりの絵柄が変わってきて、もっと価格競争力とか人材を要する部分の必要性とか、強まってくるんじゃないかと思えますね。この富士工業技術センターは約100年前に創業をした繊維工業試験場ですね、まあガチャマン時代を作った元になっているところですので、今度は工業の面でガチャマンができるように、一つこの場所においてもっと技術の高度化と言うんですかね、コミュニケーションできるような場所にしていただけたらというふうに思って口火を切らせていただきました。

〔知事〕

テクノネットふじざくらは、まあ異業種交流ということでしょうけれども、単なる異業種交流ということでもないんですか。一緒に、例えばいろんな連携をして技術革新を開発

をすとか・・・

〔参加者〕

メンバー構成から言うと発注側に当たる大手の会社さんも入ってしましてね、富士吉田、大月、上野原などそれぞれの会社が集まって、やっぱり技術の勉強と、それと企業見学会だとか、先進地はどういうことをやっているのかということをやっ磋琢磨しながら、もう6年目になると思いますけども、そういうメンバーの集まりでして、ただお仲間というだけではなくて、かなり活力ある団体になっていると思うんです。

〔知事〕

まあ県も当面の危機の乗り切り策だけではなくて、産業振興策なんかも色々やっているわけですけども、そういう中で一つやっておりますのは、特に三多摩地域との連携ですね。三多摩地域というのはわが国有数の産業集積地域と言っていいと思うんですね、先端的な。こことやっぱり交流を深めていくことが、いろんな意味でプラスになるはずであるということで、最近はずいぶん多摩地域との連携を一生懸命やったりしているわけですけどね。

皆さん方、やっぱり地理的な位置からして、あちらのほうとのいろんな取引がずいぶん多いもの shouldn't でしょうね、甲府地域以上にですね。

何かいかがですか。

〔参加者〕

工業団地組合の理事長をやっております。

当組合は、県から30数億円の貸付けを受けているんですが、今お陰をもって15年を経過残り残債務6億弱というところまでこぎ着けました。しかしながら、この非常に厳しい、落ち込みの激しい不況によって償還等には苦慮しています。

金利が今現在2.7パーセントですが、何とかせめて半分ぐらいにしたいと思っています。

また、いい企業で受注の落ち込み具合が5割ダウン、悪い企業は9割ダウンしていますので、厳しい経営環境下の会社に融資するなど、もう少し踏み込んだ融資体制をお願いできないかなと思います。

最後に、人の債務まで背負うほどの実力のある企業がない中で、非常に不安な、極度に不安な気持ちの中で運営をしているというのが実態ですので、連帯保証の枠組みをなしにすることはできませんかと、まあこういうお願いです。

〔知事〕

まあなんですね、そういう話はどこもみんな同じようですよ。

かつての中小企業事業団の枠組みの中で連帯保証ということでやってきているものから、なかなか県単独で制度を直すというのは難しい面があるんですけども、金利の引き下げ、あるいはその連帯保証制度というものを何とかというお話は、うーん、なかなかこれは難しい。

それから確かに融資というのも、いくら県の制度融資というやつは信用保証協会の保証があると言いながらも、やはり銀行の審査はあることはあって、金融機関というのも、聞いてみればなるほどなというように思うんですけども、貸すも親切、貸さぬも親切なんていうことを言いましてね、我々のほうはまあ苦しい企業だけにはもう徹底的にいろんなことをやって貸してくれと言っても、いや貸さぬも親切ですとか何とか言ってですね、先々の返済の目途が立たんものにはやっぱり貸すわけにはいきませんというようなことを言っているわけです。しかしそれは社長がおっしゃるように先々の返済を目途が立つかといえ、この不況の状況じゃあなかなか立たないですよ。

だから私もこれをやるとすると、結局はやっぱり金融機関の融資制度の問題ですから、徹底的に県から要請をしていくしかないと思っていますけどもね。これはどうですか、担当の課長は・・。

〔岩波商業振興金融課長〕

そもそも県で持っている不況業種対策融資というのは、裏が緊急保証で、緊急保証というのは要は政府保証なんです。だから380億円というようなお金が県の制度融資で出ているわけなんですけども、その担保を全部県で背負うというふうなことはちょっとできません。この経済対策では、据置期間を従来1年だったものを2年にするというふうなことが出まして、それはもう昨日付けで出しましたので、新たに借りる方はそういうことで返済については若干アロウアンスがでるかなと。

それから与信余力、これは金融機関さんとの話なんですけども、無担保部分については今8千万円が限度ということなんですけども、それについては与信余力があるところについては金融機関の判断で、まあ保証協会との協議が必要なんですけども上げるというふうなことも国では打ち出しています、県の保証協会でも検討を始めています。ですから、どうしても国の制度に乗っていかないと、実効力のある制度というのは、今回の不況に対する経済変動ということに対応する融資としては、組立てがなかなか県単独では難しいというふうに思います。

〔参加者〕

ご無理な請求してすみません。

〔知事〕

いやいや、さっきの連帯保証の話と金利の話はちょっと課題として受け止めさせていただいて、そういう問題があるということだけはよく認識をさせていただきます。

どうぞ。

〔参加者〕

大月から参加させてもらっています。

今、お話にありましたように、状況は正にその通りで厳しいものです。ベンチャー企業として自分らがここまで石にかじりついてやってきているんですけども、この不況は正にそれを根こそぎさらっていつちゃうんじゃないかというような危機感ですね、そういうも

のをひしひしと感じます。

それを大分もう時間は過ぎてはいるんですけども、この景気、去年の暮れ辺りに起きた景気の落ち込みで、契約寸前までいったものが3台、5台、全部止められてしまって、メーカーさんに、その半年間、4月までぐらいはもうほとんど話が0だったんです。これから先どうしようかなと思っている4月に入って、大手メーカーさんの技術の部分とか技術的に困っているというメーカーさんが技術オファーを出したり、あるいは試作をやってみるというような段階になりつつあるのは今の底辺で動き始めたのかなというのは感じられる部分ですね。

ちょっと話ははずれますけども、我々ベンチャー企業は、いろんな支援制度等を十分活用させてもらっているんですけども、ここの部分だけもうちょっと支援してもらえないかなと思うところがあります。商品を作り、開発して売り出すまでの技術力というのはそれぞれ企業さん、メーカーさんがお持ちだろうと思うんです。だけどブランド力がない。ブランド名が世の中に伝わらない。そして企業もわりと知られていない。いわゆるそういう意味の信用度が非常に低い。

3月頃だったでしょうかね、東京都が始めましたことをご存知だと思うんですけども、企業の、いわゆる開発力のある、いわゆる商品価値のあるものを東京都が検証して企業にフィードバックする、そしてプレスにその情報を流す。そういうことを東京都はもう3カ月、4カ月前にそれを始めているんですね。

我々ベンチャーの企業にしてみれば、まあ分かりやすく言うと水戸黄門の印籠みたいなもので、非常に世間にアピールできるわけですね。それを、ああ県がそうしているんなら大丈夫だろうという、そういうものを山梨県でも形を変えた支援というか、そういうものをやってもらえないだろうか。私ども、ちょうど足掛け8年になるんですけども、日本各地でプレゼンして展示会してやって来りながら、たまたま大手の商社さんと話をする機会があって、お宅もあっちこちよくやっているねと言われました。つまりその会場に来た人、見てくれる人は「素晴らしい。こんな中小企業に今までないよ」と言って評価してくれるんですけども、そこを過ぎるともう分からないんですね。それでいわゆる欲しいと言ってくれる人はその中のほんの0.0何パーセントの人しかないんです。大手企業さんが我々の所を見つけてくれるのに、そういう展示会や何かでもって見つけてくれるんじゃないかと、ホームページで見つけてきては私どものところに来てくれる。じゃあ展示会は何だったんだらうって。自分らはもう8年間の中の2、3年間は物づくりでその製品をグレードアップするために社内でやってましたけども、残りの5年間、6年間はほとんど日本全国を展示会で歩いている。けどもこの景気でもってそんなものは0に返っちゃった。そういうなんかジレンマに乗っかっちゃっているみたいなのがあって、そういうことも大変なんですけども、いわゆる東京都がやっているような、まあここにおいで皆さんの優秀な技術を持ったものを全部が全部そうできるかどうかというのはそれは問題あるでしょうけども、いわゆる将来性だとか、地域の仕事の創出とか、そういういろんなことを考えた中でそういう公の立場の検証といましようかね、そういうもののブランドのアップに使えるというか、そういう支援ですね、そういうものを・・・

〔知事〕

東京都がやっているというのは石原知事が言っていましたけども、何か非常に新しい技術みたいなものを都が認証して、まあ一種の表彰するような制度。例えば何か水のある加工すれば水が燃えるんだそうですね。そういうものを作っている企業があるというようなことを言って、それを顕彰をした、PR、都として表彰し大いに技術をPRしたりするというようなことをやっているということを知りましたが、そのことですか。

〔参加者〕

そうですね。例えば梨大で取り組んでいる燃料電池の問題もありますし、我々民間の中にもそれぞれ優秀な技術を持った企業さんもある。そういうものを、いわゆる公の立場で検証して、それをフィードバックする、あるいはプレスに流してくれる、そういう支援の仕方というのものもあるんじゃないかなというふうに思うんですね。それは我々、中小零細あるいはベンチャーと言われる連中にとっては泣き所なんですよ。自分らがいかにしゃかりきになって飛んで歩いても、なかなかそれを分かってもらえないというのはできない。それは大手メーカーさんが作って物を売れば黙っても・・・。

〔知事〕

まあ信用力がありますからね。

〔参加者〕

信用、それがあるものだから買ってくれます。余談ですけども、先週ですかね、長野県のある有名なメーカーさんが、「キーマン」というキーマン溝を加工する機械、いわゆるブローチ盤の芯ズレが100分の3以内に収まらないで困っていると。私と専務で行って話を聞いてみたら、作ったものの100%の内の40から50を捨てている。ここを何とかして欲しいと。それだったらうちのほうは大体100分の1以内ぐらいだったら収められますよ。そしたら早速、じゃあ機械から仕事から見積もって下さいというのが、まだ見積もりを出したばかりですが、そういうふうにやっぱり困っている人は今の時代ですからネット、ホームページを見ながら来ますけども、一般的にもうちょっと引きを出したいなと思う余裕なりつてがないものですから、そういういわゆる公のそういうものがあると、またそれなりに違った状況が開けていくんじゃないかなと思います。まあ突然で申し訳ないですが。

〔知事〕

いやいや、とんでもない。まあそれは大変に大事な指摘だと思いますので、よく検討してみたいと思います。ありがとうございました。

〔参加者〕

私は2点ほど知事さんをお願いしたいなと思っています。

小菅は見ての通り村外に出るのに大変不便な所でございます。今知事さんが一生懸命進めていただいております松姫峠ですが、あれが完成すると、大体聞きますと30分近く早く色々な所に行けると、そういうような形ですので、何とかそれを計画通り、大変財政的

に厳しい状況だと思いますが進めていただきたいなど、このように思っています。

私どもも社員を研修に出すにも、もう3時には上がらないと都留とか塩山とかには研修に出せません。そのトンネルができますと、都留の6時からですか、その社員の研修とか、そういったものに出すにも5時まで仕事をして出せるような状況ですので、一日も早くそのトンネルを開通していただきたいなど、こういうことでございます。仕事のほうも甲府とか、それから静岡とか、色々そちらのほうに、東京には出ていくんですが、30分近くなりますとかなり遠くのほうまでエリアが広がりますので、何とか期待していますので一日も早くそれをお願いしたいと思っています。

もう一点は、これ私が普段感じているわけなんです、電線を地下に埋めていただく工事を進めていただきたいということです。吉田に来てこの日本一の富士山を、いいな、写真撮りたいなと思えますと電線があつてちょっとカメラを下ろすような状況になりますし、また災害とか地震とか色々起きた時にも、東京都がかなり進めているようですが、そういった線を地下に埋めまして災害が少なくするような対策を取っているようでございます。

埋めますことによりましてかなり仕事が創出できるんじゃないかと思えますので、是非県でもそういった仕事を後押ししていただいて、東京電力と進めていただければいいなと思えますので、是非その辺をよろしく願いいたします。

〔知事〕

松姫峠は予定どおり、あるいは予定よりもっと早くやるようになると思います。今、大月のほうから掘っているわけですね。これはもう今年中にはできますよね。今度、向こうから掘り出すわけですが、それも予定どおりですから、あれ22年でしたっけね予定は。

〔参加者〕

開通は24、5年頃になるから・・・。

〔知事〕

もうその予定の時期には間違いなく、あるいはそれよりも早くできるだろうと思いますね。後は139号のずっと南のほうに狭い所がありますよね。その辺のところの整備をしなければいけないですね。まあそういうことも含めてこれは大丈夫ですから。

あと電線の地中下も、力を入れていまして、特にこの地域は。やっぱり世界文化遺産なんかになっていく地域ですから、電線の地中下というのは非常に大事で、もう主要な道路については全てやるぐらいのつもりで今進めているところなんですけどね。ただこれから事業が、拡幅の事業をするような所、例えばこの138号線の新谷地区の拡幅をしようとしているわけですが、こういう所が拡幅が終わらないとできないですよ。だからどうしてもまだ10年近く掛かるわけですがね。大体もう道路事業として終わったところは、もう電線は地中下していくようにしようとしているところなんですけどね。まあ大事なことだと思っております。

〔参加者〕

よろしく申し上げます。

〔参加者〕

私、2点申し上げたいと思いますけど、まず1点は今の緊急経済対策。色々な話は皆さん方が言っているとおりだと思いますが、金利返済の延長、これはなんとしてもしてもらいたい。というのは、本当に経済がざっと半年ぐらいで立ち直るだろうかと。今お金を借りて、政府からのやつを借りたりしていますけども、それでその後のことを私はどうしても心配になってしょうがないんですよ。

今の経済の立ち上がりがまだもっと先に行くだろうと。その時に早く見守って手を打って、もう少し金利の返済、元金の返済なんかを延長する施策をしておくべきじゃないのかなと。まあこういうようなことを思います。

それともう1点は、これはまた違う観点からですけども、テクノネットふじざくら、私も一番最初からのメンバーですけども、やはりこの地域、私は忍野村なんですけども、どうしても甲府のほうに行く色々な会議がある。やっぱり距離が遠く感じてしょうがないんですよ。先ほど言われたように、郡内の経済の金額を置いてみると、結構ウェートの的にはこっちが人口の割には多いと思うんですよ。そういう形なのでこれから先を考えた時にどうしても国中のほうまで行くでなくて、この工業技術センターを中心とした考え方、また将来を考えた時には何かこの辺の学校関係ですか、教育関係ですか、郡内の中から、将来の人間を教育するような、何かそういうものを作っていかなきゃならないんじゃないかと。日本の場合には工業で生きるわけですから、やっぱり専門の学校ですか、高専みたいな形にどうしても、これは絶対将来の自分たちの子どものためには、郡内のためには欲しいなと。また工業技術センターをもう少し、私とすれば格上げするような形の施策を、基本的な戦略として欲しいな、してもらいたいなと。

そしてやっぱり交通アクセスとすれば、我々は静岡に近い、こちらのほうは富士宮に近いし、こっちは神奈川に近いわけですけども、そういう中で国中と郡内、まあトンネルはできるようですけどね、そうするとすごくアクセスは良くなると思いますけども、そういう観点から郡内のほうの工業技術の、それから山梨県内全体を考えてみても、やっぱり将来の子どもたちの教育、工業技術の教育というものを考えてみるとどうしてもそういうものはやっぱり何か欲しくてしょうがないんですよ、将来を、私の年齢から言えば子どもたちのためにという。その辺のところを知事さんをお願いしたいなと思って出て来たんですけど。まあ一つそのような観点で、金融面、今の緊急経済と、それから将来をもっと考えるという、2点という形でお願いしたいなと思います。

〔知事〕

まあ教育、高専、高等専門学校的な教育機関を作る、作ってという話は前からありましてね。ただ現実的にやっていくとなると、やっぱり塩山に産業技術短期大学校というのがありますけれども、ああいうものを充実をしていくというのが非常に現実的だと思うんですね。

今から高等専門学校を作るとなると5年制になり、かつ、何でしょうかね、まあいろん

な許認可の関係から先生を集めたりとか、それから土地の手当をして云々となると、これから初めて学校ができて、そして子どもが卒業していくまでに10年先になるわけですね、高等専門学校というやつは。

そういうことも考えたりすると、やはり産業技術短期大学校的なものを拡充していくのが非常にいいんじゃないかなと思ひまして、今この郡内のほうにそういう産業技術短期大学校的なものを造る検討をしているところなんですけどね。

ただ場所については色々意見がありまして、おっしゃるようにその工業技術センターを核にしてという考え方も確かにあると思うんですけども、一方において工業系の高等学校との連動を考えていかなきゃいかんとなると都留市にある谷村工業なんていうのがありますけども、あの辺との関係なんかもありますし、場所はどうかということはあるんですが、いずれにしても工業系の高等学校3年にプラスして2年、全体としてその専門学校、高等専門学校と同じような教育ができるような教育機関がこちらに必要じゃないかということは我々も認識し、そう遠くない将来そういうものについて構想をはっきりさせようというふうに思っているんですけどね。

ただ場所についてあまり俺の所へ、俺の所へと言われるとなかなかこれ難しくなってくるんですけども（笑い）、一つ私どもお願いしているのは、是非一つその実学の教育ができるように、例えば企業の有能な技術者の皆さんが非常勤講師となって教えたりとか、企業との連携を非常に強めた教育機関、それでないと役に立たないんですよね。そういう教育機関を作ったら運営については是非一つ、費用も負担しろとまで言いませんから、是非一つ企業の皆さんに協力をしてもらいたいと。

〔参加者〕

また少し付け加えさせていただきたいんですけども、工業高校の延長線みたいなことでなくして、少し飛び抜けたような、日本全体に響くような、そういうことを打ち出さないとなかなかぴんと来ないんじゃないかと私は思うんです。工業高校の延長線ぐらいだったら普通の所でもやっているんじゃないかと、私はそんなことを思うんですけども、まあ夢の夢を語っているのかもしれないんですけど、そういうことでないと何か進まないんじゃないかなと。そんなことで色々大変なことがあると思いますけどね。

〔知事〕

そうするとそれは大学を作るような形になりますか。

〔参加者〕

特別な、まあ全国から集まれるような、すごい高専があるよというようなことをするには、今の工業高校の延長線じゃなくて、もう少し上のようなことを打ち出さないと響きが届かないんじゃないかと。思いきったそんな事をするような、私は気持ちでいるんですけど、まあ個人的な意見です。

〔参加者〕

今ある都留文科大学に、工業系と言うんですか、そういう科を新設していくことを考え

たらどうですかね。都留市でも経営方法を変えようと考えているみたいなんです。だからこの際、工科なんか入れたほうが本当はいいような気がするんですけど。まあ難しいことはどういうことがあるか分からないんですけど、きっとそういうところを卒業すると地域に結構会社もありますから貢献できるような気がします。

〔知事〕

まあ都留文大を都留文理大にしたらどうかというようなことを内々には考えていたことがあるんですけど、何か話をしたことはありませんか。

〔佐野産業人材課長〕

文科省の関係になりますけれども、今は少子化の時代でございますので、新たな学科の増設というのは非常に厳しいということはあるかと思えます。ただ、そうした中でやはり特色というか、地域の特色を出すような検討が進められれば、ちょっと私これ聞きかじりで恐縮なんですけども、ある程度そういうような方向も出してくれるんじゃないかなと。いろんな産業教育、これがキャリア教育という形で文科省がちょっと力を入れるというような話も聞いておりますので、そうした中で新たな取り組みが試験的、パイロット的に出てくるというような可能性もあります。

ただ私も産業人材ということで、やはり地域の中小企業の皆さんにお役に立てる人材を何とか入口から出口までということで雇用していただきたいというのが主でございますから、そういう目標が、例えば高度な設計企画をやる人なのか、ワーカーなのか、あるいはその中間の産短大とか高専を出た、本当に現場の幹部職員になる人なのか、その辺がはっきりしてくればやはり地域にとってどれを選ぶか、工業大学を選ぶのか産短大の拡充を選ぶのか、あるいは工業高校の充実を選ぶのかということにちょっと繋がってくるんじゃないかと思っていて、だから我々としてはやっぱりその中間の現場の技術者の皆さんを中小企業の皆さんのところへ補給できるような、そういう取り組みを検討していかせていただければなというふうに考えております。

〔参加者〕

もう一ついいですか。

アクセスの問題で、都留のインターはいつ仕上がるのかなと思って見ているんですけど・・・。東名から来た場合、都留市へはどうしても大月に行ってまた戻ってこなきゃならないから、いろんな不便を感じます。

〔知事〕

おっしゃるとおりですね。ずいぶん時間が掛かって全く申し訳ないんですけど、23年の春頃には間違いなくできると思えます。ただ何て言うんですかね、地権者なんですよ、問題は。一人どうしてもだめなんです。本当はもう去年、一昨年ぐらいにできてなきゃいかなのです、本当言ってね。もう一人の人間だけがものすごく粘っちゃってどうにもならない。まあそんなことで申し訳ないですが・・・。

〔参加者〕

大月から来ました。私は、この地域は技術力を持っている会社さんが多いと思うんです。それは私どもが色々展示会だとか、全国に出回ってみて、初めてその地域との差というのを、自分たちがどのぐらいの位置にいるかというのが分かったというところがありまして、決してこれは他県とか他地域に負けるようなものではないと。そうすると例えば物づくりという、この辺ですと例えば諏訪だとか、多摩研究地域だとかというふうに想像するんですが、中にはそれにひけを取らないよう技術もたくさんここにはあるわけですね。

ですけど、やっぱり物づくりイコール諏訪だろうというのは、やっぱりそういうブランドとかイメージというものがものすごく、それだけが浸透しているような気がするんですね。いろんな方と話をして、山梨ってどういう所なのと聞かれると、富士山があるんだよと、あとリニアがあるんだよとか、やっていることは半導体だよとか、ロボットがあるんだよなんて言うと、それはもう世界的にもすごい所だよねと言われるんですよね。これだけのすごい技術だとか、そういう知名度があるものを、私はもう少しこの地域のブランドとして発信して、我々の側面の支援みたいなことを県のほうでやっていただければ、あとはもう企業が技術を上げるということを努力すべきじゃないかと思っております。

外国に出しても富士山の麓から来たんだよ、リニアを持っている技術の地域から来たんだよ何て言うと、かなりそういうほかの地域よりもいい印象を与えられるんじゃないのかなというふうに思っておりますので、そのところを一つ考えていただきたい。

〔知事〕

おっしゃるとおりですね。富士山の文化遺産という話が出ただけで、去年辺りは過去最高の登山客になるわけですから、非常に知名度が上がってきました。やっぱり世界文化遺産になれば、これはもう世界的な有数のブランドの高い地域になるだろうと思います。3、4年後には世界遺産登録が実現できるように努力を今しているところです。

〔参加者〕

よろしいですか。私の会社は、元々光化学を研究開発している会社です。

〔知事〕

光化学、ほー。

〔参加者〕

簡単に言いますと照明なんです。そういったものを含めてやっている会社なんですけど。たまたまいろんな意味で産業支援機構さんのからみもございまして、ちょうど今お話が幾つかある中で、かなりシビアな形でやっている会社として意見を言えるんじゃないかと思えます。まず一つ大きなポイントとしまして、不況不況ということで、中小企業に対する支援の一つに助成金というのがございまして、これを活用することによって新しい産業を創設して、それに伴って人材の確保ができたりとか、あるいは景気回復にも役立つというようなうたい文句で色々お話をいただいて、例に漏れず幾つか、産業支援機構のものも含めて助成金をいただきましてやっておるんですが、問題がたくさんあります。

まず一番最初に申請書、今日持ってきましたけど、申請書一つ出すにもこれだけの書類を書かなきゃいけないんです。皆さん勘違いしているかもしれませんが、中小企業の社長は営業マンであって、運転手であって、お茶くみであり、たまには作業員でもあるわけです。その人間が申請書をこれだけの形で書いていくのにどれだけの労力が掛かるか。これは大変な作業なんですね。まあいいでしょう、これはとりあえず書いて何とかお話をさせていただけますと。その次にやりますのは、今度は発表会ですね。この発表会がわずか10分。10分間で自分のところの開発を説明できる人間が僕にはいるとは思えないんです。その10分間の間にまとまりきらないとそれでNGということになる。それが本当の目的かどうか・・・。

〔知事〕

発表会というのは要するにプレゼンテーションですね。

〔参加者〕

プレゼンテーション10分間、この間に要点をまとめて全てを発表しないとNGになるわけですね。これでは本当に素朴に研究開発だけやっているところにしてみると、この10分間で全て自分のところの研究を発表できるということはまずあり得ないと思っています。

プレゼンは相当その審査の中で大きな役割をしますので、せめて内容に合った時間をいただいてプレゼンさせていただくのが筋じゃないかと、まず一つお願いします。

まあ運よく採択いただいても、実はこれだけの分厚い書類をこれから提出しなきゃいけないんです。まず実績報告書。これがページ数にして約15ページぐらい。この二つはどう違うんですかと聞きましたら、これは素人の方に分かりやすいようにその15ページを書きなさいと。15ページですよ。同じ事を書くわけです。

ただそれよりもっと悲しいことが一つありまして、実は日報を書くんです。毎日毎日ですよ。何をどう研究して、その結果どうだったかという、その日報を書くんです。その日報と研究レポートと実績報告書と何が違うんですか。それを全て書かなきゃいけない。それだけで45ページです。

それだけじゃないですよ。一つの物を買うのにまず最初にパンフレット集めから始めます。それから見積書を取る。50万以上の物については2社以上の合見積を取る。その後、今度はこちらの仕様書を作る。それにしがいまして、この仕様書に当てはまるものの最終見積もりをいただく。その見積書を元にして、今度こちらは、まあ要するに注文書という形で出していく。その辺のところをずらずら十何箇所、一つの物を買うのに必要とするわけです。それだけでもどのくらいになってしまうか。相当な書類です。これで一体幾ら助成していただけるか分かりますか。

〔知事〕

社長さんのところは幾らだったんですか、助成金は。

〔参加者〕

500万円です。しかも500万円自分で出すんです。

〔知事〕

ああ、半分をね。

〔参加者〕

これ、どこの中小企業が手を出しますか。人がいるところは結構だと思います。中小企業というよりもどちらかというと中企業であり大企業はそういう専門の方がいらっしゃるのいいですよ。小企業ではそんなにたくさん人を雇っているわけじゃないんで・・・。

〔知事〕

ちょっとその手引書というのを見せて下さい。ものづくり産業支援事業補助金というんですね。

〔尾崎産業支援課長〕

県単の補助金です。

〔知事〕

県単の補助金ね。ああずいぶん細かいんですね。(笑い)
なるほどね。分かりました、改善させましょう。

〔参加者〕

改善していただければありがたいです。例えば今うちのほうでNEDO（独立行政法人 新エネルギー・産業技術総合開発機構）の支援を受けているんです。NEDOの報告書はわずかこれだけです。これで1億5千万円です。それより多いんですよ、500万円が。せっかく助成金という名目でいろんな意味で研究開発をして、雇用の促進であったり、この地域の産業として根付けけるようなものを作ろうと思っても、ちょっと躊躇してしまいます。

それともう一つ、500万円助成をいただくとすると、1千万とりあえず用意しなければなりません。なぜかと言うと全部終わってからの1、2カ月経ってからでないとお金はいただけませんので。

〔知事〕

それは採択をされてもですか。

〔参加者〕

採択されてもそうです。

〔参加者〕

全部出しても一応500万円のお金がいただけるのは全部終わってからです。その前に自分で1千万円を用意しなければなりません。この1千万円を用意するのにやっぱり金融

機関にお話を持っていかざるを得ないんです。

やっつけられる場合はそのまま採択していただけるような形になるんですが、今一番問題になっているのは実は金融機関ではなくて保証協会ですよ。保証協会でNGになるんです。なぜかと言いますと保証協会の場合、1千万円金融機関で申請しますと、1千万円の注文書を見せろと言うんです。1千万円の注文書があつてだれが1千万円借りますか。それが本当の吉田の保証協会が言ったことです。これは間違いないです。それでお金をどうやって借りてくるのと言うんですね。これでは断念せざるを得ないです。知事にお話する内容じゃないかもしれませんが・・・。

〔知事〕

いやいや、そんなことはないですね。

〔参加者〕

実際に、今そういう状況が起きているということをもうちよつと見ていただきたい。せっかくみんな一生懸命考えて、先ほどお話があつたように素晴らしい技術を持った人はたくさん、私も知っていますが、みんなこういうものはやめますね。

せっかくこういうものがあつても、煩わしいことをさせたり、システム的におかしなところがあると何の生きたお金にもならないということこそ是非ちよつとご理解いただいて、そこは変えていただかないと。本当に中小企業のその形態をお分かりいただきたいんです。社長なんて名ばかりで、全てのことをやらなきゃいけないわけですから。500万円でこれだけの作業をやれといったら、500万円そのまま一人の人件費です。そういう状況です。

〔知事〕

まあそれはごもつともだと思えますね。

〔参加者〕

例えば東京都では専門の弁理士がいたりするんだけど、そういった方を県で指定してやれば、その人が書類を代行してくれれば・・・。

〔知事〕

一種の代行ですね。

〔参加者〕

そういうコンサルタントもたくさんおりますけど、大変申し訳ないけどお高いです。(笑い)

〔知事〕

まあ行政書士さんなんかそういうことをやるんでしょうけども、しかし全部が全部というわけにもいきませんものね。最後の最後まで、まさか実績報告書も全部書いてもらうと

いうわけにはいきませんね。最初の申請書ぐらいはね、できても。

〔参加者〕

そうですね、ご相談させていただいたりしますけど、県の担当の方じゃなくて、コンサルタントという方々にやっていただく以上は少なからずお金が掛かります。500万円が300何十万円になると、そういう状況になりますね。

〔参加者〕

先ほど人材教育の話がありました。私も国中の機械電子工業会にいつも参加させてもらっていて、いろんな要望を県へ要求させていただいています。先ほど話があったが、やはり是非この地域に高専、高専が難しいとなれば工業高校プラス2年制の大学ですかね、そうすれば我々も技術屋を派遣してでも、講師になるというようなことを話をしていますので、是非郡内の辺りにそういうふうな学校を検討していただければというふうに思っています。

それとも一つ、これは知事さんにお話することじゃないかと思うんですが、今困っているのが当社の場合、まあどこもそうだったんだろうと思うんですけども、派遣社員を、まあこういうふうな状況ですので、あまり新聞ざたにならないように1,050人から200人ほど整理いたしました。さらに今一時帰休等々でしのいでいるんですが、これが経済状況が回復してきた時には、夜勤を派遣の方にさせていただきたいと。なかなか正社員というのは夜勤をしたがらないです。

今、製造業への派遣を禁止するというような話がちらほらあって、最終的にどうなるかということなんですけれども、実際に行われると我々としてはどうするかなど。この地域でやれるのか、あるいは東北や北海道まで行かないにしても、日本の中で別のところへ行くことまで考えなければならぬのは恐ろしいことです。製造業への派遣が禁止されると、我々としてはいろんな問題を抱えてしまうなというふうの一つ考えていると。ここは知事さんに要求することじゃないだろうと思うんですけど・・・。

〔知事〕

いや、分かります。

最初の点につきましては、こちらの地域に何らかのものを作るということで今検討しているところではありますが、またそのうちに具体的な構想の段階で色々ご意見がありましたら是非一つご指摘いただきたいと思います。

その派遣社員の話、あれは日雇い派遣を禁止するんじゃないかな。製造業の派遣そのものを禁止するわけじゃない、日雇い派遣を禁止するようなことを言っていましたね。

〔参加者〕

我々としてはそういう認識で、どうしても残さなければいけない人間を直接雇用に変えました。そのぐらいの覚悟でいます。どうなるかということがはっきりまだ見えませんが、1年先か2年先か、多分ある程度経済状況が回復してきた時に、今は夜勤がありませんが、夜勤をだれがするかという問題も抱えています・・・。

〔知事〕

そうですね。確かに製造業について派遣を一切やめるということになると、ちょっとこれ大変なことになるでしょうね。分かりました。その点は我々も、もしそんなことになるようならば県としても国に強い申し入れをしたいというふうに思います。

〔参加者〕

中小企業と大企業両方兼ねている立場でございます。

昨年9月15日でございますかね、リーマンブラザーズの破綻以降急激に激減したというんですかね、受注が落ち込みまして、現在では85%減ぐらいですかね。したがって作るものがないというのが実態でございます。

したがって先ほども話がありましたように非正規社員はこういう時期だから契約更新をしない、あとは嘱託、今年金受給が一応64歳ですかね。だから100%年金が受給できる資格のある人は優先的に社員でも雇いたい。あとは時間外は当然ながら禁止。一時休業も今やっているという非常に大変な状況になっている。

今度、中小企業の立場から言いますと、今雇用調整助成金の申請をしております、助成金の上限は7,730円ですね。これしか助成金がないということで、先ほどお話がありましたけども色々助成金の申請に掛ける手間の割に助成金の金額が非常に少ないという実態でございます。

ハローワークの所長さんから、これはまあこちらの所長さんじゃないんですけど、何か教育訓練を実施したら1人日額6千円出て、この二つを合わせると1万3千円ぐらい一人に助成できますよという話を伺いました。ですが、とにかくこの上限を少し上げてもらいたいというふうに考えています。実態と合っていないですから。

〔知事〕

9割までみるというんじゃないんですか。

〔参加者〕

最高の額が7,730円なんです。そこでもう打ち切りだという。

〔知事〕

雇用調整助成金の関係では、国のほうの補正予算では6千億円新規に手当しましたね。

〔知事〕

何かずいぶんその申請が多くて、労働局の担当のところにはもう膨大なものが出ていて、随分忙しいようですね。

〔参加者〕

それと学校に関しましては、私ども今年4月は110名ですかね、グループで新入社員を採用させていただいたんですけど、県内からは谷村工業高校、富士北稜、峡南から7

名。高校生が7名中7名を今年採用させていただきました。短大、大学、大学院に關しましてはほとんど毎年県外です。県内からはほとんど採用するケースはございません。

〔知事〕

ああそうですか。それは何でしょうかね、質が悪いんでしょうかね。それともその採用できない理由は・・・。

〔参加者〕

なかなか山梨県内で来られるというのはいないです。

〔知事〕

割と採りにくいですか。山梨県の若い人というのは割と東京志向が強くて、なかなか留まらないんですよね。それに工業系の大学というのが山梨大学しかないものですから、どうもうまくないですよ、確かに。

〔参加者〕

リクルート活動を一生懸命やっているんですけど、どうも県外から集まるケースが多いですね。

それと最後に知事にお礼を言わなければいけないんです。鳴沢村に私どもの研究所がございます。実は山梨県には情報ハイウェイという光ファイバが高速道路沿いに走っているんですが、私どもの研究所は村役場から3キロぐらい南のほうに入った所なんですけど実は光が来てなくて、情報ハイウェイ高度事業化計画かな、その申請書を書けば知事が承認をされて助成金が出るというお話をお聞きしました。それで申請書を書いて知事に承認を貰って、実は550万円ぐらい掛かったんですけど半分を県が助成してくれるということで、残りを村が4分の1、私どもが4分の1ということで負担しました。ありがとうございました。

〔知事〕

些少でありましたが、まあそれはよろしかった。

〔参加者〕

ちょっと金融機関からの融資の問題です。今、県の融資は非常に色々メニューが多いですけどね、確かに手続きとか、ちょっと煩雑なものもありました。一番中小企業で役に立ったのは、やまなし産業支援機構（中小企業支援センター）、昔の中小企業振興公社ですね。まあ知事さんが理事長ですが、あそこの機械貸与とかリース、あれはものすごく評判がいいですね。

〔知事〕

ああそうですか。あれは使い勝手がいいですか。

〔参加者〕

県内でおそらく小規模の企業さんにあんなに恩恵になるのではないと思うんですね。だから私もちょうど新しい会社を立ち上げて5年目ですけれども、今3本ぐらい実際に機械対応でリースを利用しているんです。

今、急激な経済不況が来ましたり、経済変動が激しい時ですけども、たまたまこういう時に逆に一部お返ししておけば楽かなと。

大体県の機械貸与は、一年据え置いて6年償還。そうすると大体3年ぐらい経つと、返済金額が月当たり仮に30万円ならあと残債が200万円から300万円ぐらい。後2年ぐらいで終わる予定で、その若干余裕がある時にお返ししておいて、繰上償還しておいて、そしてその返済金額30万円をまた次のチャンスにもっていきたいと。そういうような循環の活用をしていくと中小企業は活性化するのに一番いいのかなと。

なぜかと言うと、一本借りて残債が残って、また一本増やすとまたそこに25万円なり30万円が増えるわけです。そうすると計算上採算が合っても、やっぱり経営なんていうのはそんな計算はできませんから、やっぱり資金返済は月に60万円、80万円出しますというふうになってもう大変になるわけですね。そうすると繰上げにお返ししておいて、その30万円の実際一月に払える原資を元に次の整備費に代えると、そういうような何か非常に資金の転換を早くしていけるわけですね。

〔知事〕

繰上償還を認めないんですか。

〔参加者〕

認めないです。

〔知事〕

そんなことあるんでしょうかね。

〔参加者〕

あるんです、現在。国の高度化資金ですら繰上償還を認めているわけですからね、是非これ一つ。

〔知事〕

繰上償還を認めないというのはひどい話ですね。どういうつもりなんでしょうかね。

〔参加者〕

まあそれはいい意味で次の投資をしたいために希望するわけですから、まあ是非お願いしたいという、理事長は知事さんですから・・・(笑い)。

〔知事〕

よく検討してみます。分かりました。

〔参加者〕

新しい新製品の開発には大体助成がありますよね。それで何回かうちもやったんですけど、確かにいいものはできるんですが、物の売り方を知らないんですよね。プロを県のほうで派遣してくれるかちょっと相談したことはあるんですけど、どちらかと言うとやっぱりレベル的に問題があるかなと。

〔知事〕

ちょっと低いですか。

〔参加者〕

本当のプロでないとできませんから。ですからテレビショッピングのメンバーとも言えませんけど、それなりに、あっ、これなら必ず売れるよというような人材派遣なり相談員なりを……。欲しいなと思ったこともないものですから分からないんですよね。

〔知事〕

一応その制度があって何か派遣はしたわけですか。そういうそのマーケティングの専門家というのはいるんですか。

〔尾崎産業支援課長〕

販路の専門家も二人、三人入れていまして、重点的にやっております。

〔参加者〕

できるだけレベルの高いほうを・・(笑い)。

〔知事〕

じゃあ一回それは社長の所へ派遣しましょう。派遣させますから、まあ見て、玉が悪ければ変えてもらっていいですから。(笑い)

〔司会〕

発言をされていない方、いかがですか。

〔参加者〕

今日も実は上海からお客さんが来ていまして、まず富士山で、先ほども小菅さんも言われたように電柱のない所を探してくれと、紹介してくれと言われるんです、写真を撮るのに。景観が非常に悪いということが一番最初に感じられたみたいです。そういった所へわざわざ連れていくというようなことをさせていただいているので、特に景勝地というか、見晴らしのいい所は地中下して下さい。それはまたプラスチックも成形にも絡みますし、そういった品物もありますので(笑い) よろしくお願ひします。

それから先ほどの大学等ですね、技術レベルをちょっと上げるような形の、やはり教育

は郡内に欲しいなという感じがございます。まあこういった要望ですね。

〔司会〕

ほかに、思い残すことないですね。(笑い)

〔参加者〕

各会社の社長様方から経済に関する事をメインにですね、お話があったんですが、私はちょっと観点を変えて総務人事の立場からちょっとお話をお願いできれば・・・。

今ワークライフバランスということが盛んに言われていまして、当社でも仕事と生活の調和を取りましょうということで、今不況ですからその長時間残業労働とか残業はずっと減ってですね、その点については問題ないんですけども、やはりメンタル的に心の病になる人がやっぱりいるんですね。そして休職している人もいますし、その辺の支援を健康管理室、産業医、それから産業カウンセラーの協力を得てケアして、そして復職のトレーニングなんかもしながら支援をしているんです。

そういうことで仕事に対してはやっているんですが、生活の面で今子どもさんを育てながら仕事をされている女性が非常に増えています。そういう女性の意見を聞くと保育所ですね。やはり子どもを預かっていただかないと自分は仕事ができないということで、通常この近辺ですと8時半から4時半らしいんですね。申請を出せば早朝と延長保育ですか、富士河口湖町ですと7時半から18時まで、富士吉田市ですと7時半から18時で30分ぐらいということなんです、当社は8時半から17時までが定時間なんです、それでも定時で帰らないと間に合わないんです。状況によっては残業をやらなければいけないこともあるんですけども、「すみません。帰らせてもらいます」ということで、できれば保育時間をもうちょっと伸ばしたりできないでしょうか。それと保育所もちょっと増やしていただけないでしょうか。このような意見が主婦の方からありました。

もう一つあと生活の面で、仕事を終わった後、生活を充実させるような趣味とか、地域での活動なども必要なと思うんですね。町とか市の文化的なサークルとか、まあスポーツで色々やられていると思うんですけども、その辺の文化的な向上をするための何か県の施策等がありましたら教えていただきたいなと。

この保育所と、この文化的な、まあ自分個人の生活の向上という意味での県の施策等がありましたら教えていただきたいと思います。

〔知事〕

まず保育所の関係につきましては、一応山梨県というのは待機児童というのはないことになっているんですね。調べましても待機児童ありませんということですから、一応勘定では大体充足しているということなんですけれども、しかし実際その働いているお母さん方から見ればもっと近くにあったほうがいいという希望はあるんだろうと思うんですね。それと延長保育、確かに大体は延長保育というのは7時半から6時半ぐらいですかね。本当はもっともっと長くならなきゃいけないです、本当はね。

せいぜい、だから通常の延長保育の時間を30分早くして30分遅くする程度の話でしてね、もっと本当は延長保育をしなければいけないですよ。それから0歳児保育とか、

そういうものもやっていかなきゃいけない。まあ県のほうはそれに対する支援措置というのはずいぶんやってはいるんですけどね。さらに充実をする必要が確かにあるというふうに思っておりますね。まあもっとも、いっぺんにというわけにはなかなかいきにくい部分もありますけど、認識は十分しております。

まあ文化的なそういう活動をする機会というのは、県の施策としてあるわけじゃありませんけれども、いろんなグループというのがあるじゃございませんか、ボランティアグループというのがある。そういうものに対する支援措置、助成措置みたいなものがあるんですけども、どうでしたかな。基本的には市町村でしょうね。どんなような活動をしたいという人が多いんでしょうかね。

〔参加者〕

野球、サッカーですね。特にまた子ども、自分の子どもとか、地域の少年を集めて監督やコーチをやっている人もいれば、もう自分自身がやりたいという人もいます。まあそれはそれなりにやっているとは思いますが、やっていない人は全くやっていないんですね。私、富士宮から通っているんですけど、市民1スポーツということで色々なスポーツ教室があつてですね、やっている方が多いんですよ。

〔知事〕

富士宮はね。市民1スポーツ。

〔参加者〕

ちょっとこちらがどういうふうかはよく分からないんですけどね、はい。

〔知事〕

まあ基本的には市町村でしょうね、そういうことをやるのはですね。そうですか、分かりました。保育所の関係はよく分かりましたので・・。

〔参加者〕

総じて色々お願いを、皆さんまあ十二分に言い切れなかったことはまた県庁に押しかければ良いというふうに思っていますが（笑い）、緊急的にお願いしたいと思っているのは、金融の問題が若干出ましたけどね。県が一生懸命去年の暮れはやっていただいて、大体3月までぐらいの融資はほとんど付いたんですよ。去年の暮れまでは恐らく都市銀行、そして中銀だ、信用組合・金庫とか、その辺も全力を挙げてやってくれたんだけど、ここへ来て私が思っているのは、政府系の金融機関にやっぱり手を打っていただいて、もうちょっと夏を乗り切ると言うんですかね、商工中金とか日本政策公庫とかに支援をいただければと。一度我々の会に呼ぼうというような話も実はしていたんですよ。ここは予算を十二分に持っているみたいですから、そこをお願いを是非してもらいたいと。まあ景気は底を打ったような感じはしてはいますが、まだまだ業種感によって違いますので、そこを是非お願いしたいということ。

もう一点、先ほどらい、人材の問題で色々出ていますが、こういうふうにつえていただ

きたいと思うんです。今産業も高度化していますからね、工業高校の卒業生、まあ個人差があるから一概には言わないですが、全体的に言いますとね、ワーカーとして装置を動かすとか、精度のある仕事をするとか、こういうレベルなんですね。

それじゃあ製品の設計だとか開発だとか、こういう段階は皆さん言っているように、もうちょっと上の高専クラスのレベルの専門教育を受けないと取引先から注文が取れないという事情があるんですね。だから私は小規模でいいんで質の高まったような人たちがそれぞれの企業に一人、二人回れば、ワーカーとその開発方で取引先に行っているいろんな製品の受注を取る上で、同じ言葉で話ができるんです。

そして、そこでこの工業技術センターの役割があるんですよ。中小企業は何千万なんていう機械をそれぞれ全部持てませんからね、作業する機械は買うけども、その信頼性を図っていくことに使う機械はやっぱりここを利用するんですよ。その一体感、まあ人材とここがセットにならないと中小企業としていい仕事ができないと。そういうふうの一つご理解をいただいた中で、どうかできませんかという話なんですよ。

〔知事〕

なるほど、分かりました。

〔司会〕

それでは結びに知事から今日の感想を含めましてあいさつをお願いします。

〔知事〕

大変に貴重なお話をそれぞれ伺いまして本当にありがとうございました。やはり金融の問題などは非常に切実な問題としてお話がありましたが、今おっしゃった政府系金融機関等との連携ということも含めて、これは近々金融機関と集まって、確かに5月危機みたいなことも言われたり、ここに来てこの先乗り切りきれるかということを使う方もずいぶんありますからですね、何とか一つ乗り切っていただくようにさらなる金融対策というようなものを充実をしたいというふうに思っております。

その他、教育の問題、まあそれから地域の電線の地中下をはじめとする基盤整備の問題、それからいろんな申請書のこと、繰上償還を認めないとか、この辺は役人の悪いところですね、全くおっしゃるとおり。しかしこういうことも今日皆様方から伺ったから初めて分かる話でございまして、大変に貴重なお話を承ったというふうに思っております。

今日のお話、できるだけ実現できるように、まああまり大風呂敷を広げて胸を叩くわけにもいかんわけですけど、それぞれ事情もあるでしょうから、よく担当にも聞きながら皆様のご要望が出来るだけ実現するように努力をしたいと思います。本当に貴重なお話をありがとうございました。今後ともまた一つ是非よろしく願い申し上げます。どうもありがとうございました。

(拍手)

〔司会〕

それではこれで『ひざづめ談議』を終了させていただきます。